

令和3年度 第2回昭島市スポーツ推進計画策定委員会 議事概要

■ 日 時： 令和3年10月15日（金） 午後6時30分～8時00分

■ 場 所： 市役所3階 庁議室

■ 出席者： （敬称略）

＜委 員＞

野口 敏朗、石原 正昭、佐藤 理恵、榎本 至、中島 岩雄、新井 克己、
長谷川 恵二、安藝 進

＜事務局＞

倉片 久美子（生涯学習部長）、吉村 久実（スポーツ振興課長）、星野 敏
明（スポーツ振興係長）、城田 斉（スポーツ振興係）、上田 護（スポーツ
振興係）

■ 議 事：

1 開 会

2 議 題

(1) 「昭島市スポーツに関するアンケート調査」の結果について

(2) 「第二次昭島市スポーツ推進計画」（素案）について

3 その他

4 閉 会

■ 資 料：

＜事前配布資料＞

資料1 昭島市スポーツに関するアンケート調査 結果報告書

資料2 第二次昭島市スポーツ推進計画（素案）

1 開 会

各委員、事務局より挨拶

事前に送付した資料2の差し替えを行う。

2 議 題

(1) 「昭島市スポーツに関するアンケート調査」の結果について

事務局より資料1を用いて市民スポーツに関するアンケート調査結果を説明

- 委員長 事務局の説明を受けて何か質問はあるか。
- 委 員 中学生は段々とスポーツが嫌いになっているのだろうか。どういう傾向になっているのかアンケートから読み解くのは時間がかかる。速報ではなく完成版はいつ頃できるのか。
- 事務局 11月末までに完成したアンケート調査結果が出来上がる。そちらができ次第推進計画の方にも手を加えていく。
- 委 員 以前のアンケートと比べて一般調査はどういう特徴があるのか。
- 事務局 今回のアンケートはコロナ禍での調査となり、個人運動であるウォーキングやジョギングなどを行う人数は上がっているが、サッカーやバスケットボールなどチームで行う運動を行う人数は軒並み減少の傾向がある。
- 委 員 回収率についてだが、40.9%は前回と比べてどれくらいなのかを知りたい。
- 事務局 前は配布数738票、回収は312票、回収率42.3%となっている。
- 委 員 そこまで変化はないということか。
- 週に3日以上運動している人が多いので個人として体を動かしたい人は多いのではないかと思った。集団競技はコロナ禍でどのように活動していくかが課題になると思う。
- 委員長 そもそも一般調査配布数の700票は何を根拠とした数字となっているのか。
- 事務局 調査会社に確認をしたところ対象者数が約11万人の調査であれば700票以上の調査を行い、回収率が中学生調査と合わせて40%を超えるようであれば有効なアンケート結果といえるのではないかとご意見をいただいた。
- 委員長 今の中学生高校生は運動に対しては二極化などとも言われているがそういう結果が出ているのだろうか。
- 事務局 部活等で運動を実施している中学生は多いと思うが、この調査は部活動や学校での体育などを抜かしているため、数字が減少傾向になっているのではないかとされる。
- 委員長 柔道部の顧問をしているが、軒並み柔道部がつぶれてしまっている。柔道場はダンス部の練習場となってしまっている。

(2) 「第二次昭島市スポーツ推進計画」(素案) について

事務局より資料2を用いて第二次昭島市スポーツ推進計画(素案)を説明

- 委員長 議題2に対するご意見があればお願いしたい。
- 委員 事前に送付された資料をチェックしていたので新しい資料と見比べながらの話になってしまう。ページ数でいうと事前配布が45ページ、差替資料は44ページと変更されているが何が変更されたのか。
- 事務局 事前配布資料の3、4ページのところを集約して1ページにまとめた。その他には誤字脱字を訂正している。
- 委員 2ページにある国の数値目標は、成人スポーツ実施率週一回以上が65%、障害者は40%としている。国の数字よりも下回る数値を設定したのはなぜか。
- 事務局 今回のアンケート調査とは別に市民意識調査を隔年で行っており、同内容の調査をしている。今回の調査結果では成人の週一回以上のスポーツ実施については53.2%となっているが、令和元年に行った市民意識調査においては同様の設問で約42%であった。そのため、今回の数値目標では60%とより実現可能な数字に近づけた。
- 委員長 年齢ごとの傾向は分けられていないのか。
- 事務局 アンケート調査1-15のところでは年代別の週一回以上のスポーツ実施率を掲載している。結果からすると高齢の方がよく運動しているように読み取れる。
- 委員 9ページにあるスポーツ推進計画の検証を見ると、56個と多くの施策を展開しているようだが、広く施策を行うのではなく的を絞ったりして重点的に行った方が良いと思う。また、AからDの評価で、点数の低い評価のものは人材や指導者の育成が多いようだが。
- 事務局 今回は進捗状況を評価したものになっている。また次期計画からは施策を細かく分けるのではなく大きな枠でとらえた施策にしようと考えている。
- 委員 今回のアンケートがどのように市民にフィードバックされるかを教えて欲しい。私は昭島市水泳協会の代表をしており、総合スポーツセンターのプールを使うが利用規則が多いのではないかと考えられる。また、スポーツ協会からも補助金等の配分が少ない状況である。水泳協会として教えようとしているのにプール利用の際には利用料を支払わなければならない。これだけ良い案があるのに何故市民まで有効な成果が回ってこないのか。
- 事務局 アンケート結果については現在のスポーツに対する傾向を読み取るために行っている。そして施策についても策定委員会でご意見をいただいたうえ

で今作っている推進計画に載せていこうと思っているのでぜひ議論をお願いしたい。市民の方々にはスポーツ推進計画をホームページ上でも公開している。アンケート結果についても公開していくことになる。

○委員長 ホームページや広報でアナウンスすることで政策が末端まで届くということか。

○事務局 計画が策定されるとそれがスポーツに対する施策となるため、それに基づき各部署がどの様に市民にアプローチをしていくのか検討をしていくことになる。委員からご意見をいただいたようなことも含めて各部署で、どのような方法で実施をすればスポーツ団体がスポーツの向上に向けて進んでいけるのかをまず検討する。例えばプールであれば一般の利用や市の事業も実施している中で団体が独自に教室を開催したいというときに、どのように整合性を図ってやっていくのかを踏まえ検討し、提示することになる。計画が出来て直ぐにはなかなか難しいと思うが、今回策定する計画を踏まえてどのように進めるかを市民の方々にお知らせをしていく。

○委員 これだけ良い案があるが、私たち団体に対して教室等の開催方法等の提案がないことから不満が募ってしまう。

○委員 委員の意見はもっともだと思う。くじらスポーツクラブについてもなかなか活性化していない状況は、広報の方法が下手だからだと思う。これはスポーツだけではなく、私が市で主催されている他の審議会等に出席するたびに言っている。知らない人との乖離を埋めていかないと良くなならないと考えられる。

○委員長 市では市報を作り色々な方法での周知もしているが市民には届かないというのが実態ではある。

○委員 昭島市で水泳の指導をしたいときには広報あきしまに掲載するのだが、それが年に2回で30～40文字ほどでしか掲載が出来ない。総合スポーツセンターに掲示をしても利用者が少なく見られる機会がない。スポーツセンターも公的な運営だから続いているが、民間なら潰れてしまっている。また、どこの協会も同じだが高齢化が進んでいる。次の世代を育てようにもなかなか集まらない状況であり、このままでは昭島のスポーツはさらに衰退していくと思う。

○委員長 今の状況は理解していると思うが、さらに追い打ちをかけてはいけないと思う。今はインターネットで情報が直ぐに見ることも出来る。発想を少し変えることで情報が広がっていくのかもしれない。

○委員 これだけ良い資料があるので、もう少し見方を変えれば良いと思う。議題とは別件であるが、総合スポーツセンターのプールはマニキュアを塗っていたら入れないという規則がある。マニキュアのどこが悪いのか。一般市民が有効利用出来るような規則を作らなければ利用者は増えないと考えられる。もっと利用者の立場に寄り添い、柔軟な思考を持ちながら動ける組織づくりが必要ではないかと考えられる。

○委員 今の委員の話に付け加えるが、アンケート調査の間4「スポーツを行った

場所は、どこですか」に対して公共のスポーツ施設よりも民間のスポーツ施設の方が上回っている。昭島の公共のスポーツ施設は屋内屋外ともに数はあると思うが、なぜ民間の利用者の方が多いのか。先ほど委員の言う通り規則が多すぎるからだと思う。マニキュアの件もあるが、例えばプールの飛び込みなどである。他にも色々とあり、ジュニア育成事業で実施したいことも利用規則のために出来ないと水泳協会の人からも聞いている。それぞれの公共施設の利用規則についても見直さなければいけないことがあると考えられる。私の専門はテニスだがテニスコートでも何とかして欲しい事が山ほどある。

○委員長 飛び込みについては学校でも指導をしていないので、公共の施設で行うのは難しいと思う。

○委員 公共の施設を規則で縛ると利用者は減ってしまう。市は採算度外視で実施していると思うが、民間の場合はそこが違う。もっと施設を有効活用すべきではないかと考えられる。

○委員 公共でやっているから、収益よりもルール等を細かく考えて運営をしなければならないという考え方ではないかと思うが、その考え方は時代にはそぐわない。スポーツ協会も一般社団法人になって収益をあげていけるような時代であり、自分たちでお金を工面出来るようなシステムを作ってやっていかないといけないと思う。水泳協会では水泳指導を実施する際にプールの予約をすると、1コースが3,000円程かかってしまい、スポーツ協会から貰っている補助金は年間5万円で直ぐになくなってしまう。指導者に交通費も出せない状況である。ただ、出さなければ次の指導に来てもらえないのが現状である。時代が変わっているのだから規則も変えていかなければならないと思う。

○委員長 規則を大きく変えてしまうことで、問題も出るだろうが、運用方法を工夫していけばいいのではという意見か。宝の持ち腐れにしてしまうともったいない施設が多い。

○委員 指導者が講演会などに行き技術を学ぶ際にも、やはり自腹で行っている。それは協会自体にお金が無いからだ。歳入の確保も出来ない状況であり、協力も難しい状況である。

○委員長 スポーツ指導者の確保はとても難しい状況である。また、推進計画の検証では指導者の確保がD評価と今後も実施の見込みが立たないとなっている。

○委員 日本スポーツ協会の指導者育成の資格が今年度から変わった。例えばソフトボールチームを立ち上げる際にはクラブチームの指導をするための資格としてスタートコーチを持っていればクラブチームの子供たちを指導することが可能となっている。今まではスタートコーチの資格を取得するためには毎週日曜日に4週かけて、講習会を受講しないと資格が得られなかったが、今年からは1日で取れるようになった。こういった資格をうまく活用して、まず昭島市の指導者育成における頭数を増やしていくことで、子

供たちに講習イベントを開く際、その資格を持つ人に指導してもらいスポーツを広めていくような組織作りが出来れば活性化に繋がっていくのではと思う。

また、くじらスポーツクラブをもっとメジャーにすることも大事だと思う。そのためには受講生を増やしていく必要があると思うが、くじらスポーツクラブの指導者数はどれくらいいるのか。

○委 員 13 個の教室があり、そこには各 2 名の指導者が着いている。その他に受付があり、延べ 25 名ほどになっている。

○委 員 子どもの参加者が少ないというので子どもに焦点を当て、中学校や小学校で教室を開く旨のチラシなどを配布し募集をすれば運動するきっかけ作りにはなると思う。

○委 員 昨年、小学生を対象にインドアペタンクを実施するために、スポーツ担当の方と話をさせてもらい 2, 3 回開催した。子どもたちも興味を示しているので今後もこのように広げていきたい。くじらスポーツクラブは高齢者が非常に多く 30～50 歳代が殆どいない状況である。広報を考えてはいるが、市の方で上手な周知方法があれば良いのではないかと考えている。広報の仕方についても推進計画に入れることが出来ればもっと市民が動いていくのではないかと感じている。

○委 員 例えばホームページにソフトボールのイベントをやる、親子キャッチボールをやるなどを掲載し、その際に資格を持った指導者が必要となった時に学生でも持っている人もいるので、そういう方を派遣して子ども達と一緒に実施することが出来るので無いと思う。このように協力しながら実施出来ればソフトボール以外でも活性化していくきっかけ作りにはなると思う。

○委 員 子どもは参加してくれれば興味を示してくれる子が多い。チャンスの与え方をうまく考えていきたいとは思っている。

○委員長 まずは推進計画を策定し、その後に広報の方法なども考えていければもっと活性化していくと思う。

○委 員 42 ページのスポーツ協会加盟団体についてであるが、これはスポーツ協会が社団法人格を持ち、そこに各競技団体が加盟しているということなのか。私の関係している鎌倉市では、市のプール運営や水泳教室の企画運営などを鎌倉市水泳協会が担当している。先ほどの委員の意見を伺うと教室等に苦勞しているようなので、その関係について教えてもらいたい。

○委 員 スポーツ協会の会長をしている私から回答する。一般社団法人に 7 月からなったがその前は法人格を持たない任意団体であった。一般社団法人になり行く末としては市の公共施設の管理運営等についても行っていききたいと思っている。対価をもらうことで財政面を充実させたい。各協会への補助金も増やしていきたいと考えているが、まだ発足したばかりであり将来的にはそうしたいと考えている。また、加盟している 23 団体についてはスポ

ーツ協会に加盟しているが、個々の競技団体では法人格を持っていない。スポーツ協会の運営についても各競技団体から選出された理事と協議しながら運営している状況である。

○委 員 将来性がある運営方針であることが分かった。25 ページの基本施策では競技スポーツを楽しむ環境づくりについて記載されているが、競技の専門家が子ども達を楽しませるのが一番良いのではないかと思う。また、ジョギングやウォーキングなどの個人種目は競技団体で支えることは難しいと考えられるので、行政が中心となりサポートをする必要があるのではないかと考えられる。場合によってはスポーツが好きになり競技スポーツに入っていくこともあるのではないかと思う。

○事務局 もう一点、昭島市では指定管理者制度を導入していたかと思うがどうか。現在は指定管理ではなく委託契約での運動施設の運営となっている。24 ページにて指定管理者制度の管理運営の導入も記載しており、今までとは異なる運営が出来るのではないかと考えている。例えば、指定管理の中にスポーツ協会が入ることで一部の施設の管理や教室の運営など、協会の持つノウハウをより生かすことができるのではないかと考えている。直ぐにという状況ではまだないが、市としても指定管理者制度の導入等について検討している状況である。

○委 員 先ほどの稼働率についてだが、昭島市のトレーニングルームでは昭島市以外の方も 290 円で利用することが可能となっており、フリーウェイトもかなり充実している施設である。施設にあった稼働率を出せる方法を考えるとより成果が出ると思う。私の住む隣の区では、公営プールの営業時間を朝 7 時からにしたところ、近所の方が多く利用したケースもある。その競技の専門家が先を読みながら運営していくのが良いと思う。

○委 員 他の委員からの話にあった広報についても計画にあるので上手に実現出来れば良いと思う。また、委員からは利用者からの意見の反映が上手に出来ていないという話もあったが、意見の反映については公共スポーツ施設の充実部分の内容に当てはめ、実現する際に意見を吸い上げる仕組みを作っていけば良いのではないかと思った。皆の意見が反映できる良い計画だと思う。

○事務局 様々のご意見ありがとうございます。受益者負担や指定管理者制度など市の方でも検討しており、様々な施設への導入に向けた検討が必要であると考えている。今回の意見で直ぐに出来るものも出来ないものがある。例えば広報についてであるが、予算上の問題もあり広報の紙面についても余裕がないため、年に数回しか掲載が出来ない状況である。しかし、市でも市民団体が活動していることを市民に周知していくことは大事なことでと思っている。新たに広報の紙面を割けるのか、又割けないのであれば、学校へ配布をするなど新たな手法について協議しながら検討していければと思

う。また、施設利用料についてはトレーニングルームなどの市外利用者の増額や、無料施設の有料化なども考えていかなければならないと考えている。

今回の計画に基づいて皆さんの要望にどこまでお答えできるのかは分からないが、真摯に受け止めたいと思っている。しかし、市民全てが皆さんと同じ意見ではないのも現状としてあり、それを踏まえた上でどこまで対応出来るかについて検討していきたいと思っている。

3 その他

次回は11月15日月曜日18時30分からを予定している。

4 閉 会